

この度、第 116 回あしぎん景況調査の結果がまとまりましたので、別紙の通り発表させていただきます。今回のポイント及び概要は下記の通りです。

記

1. 今回のポイント

企業の業況感は、製造業を中心に緩やかに改善している。

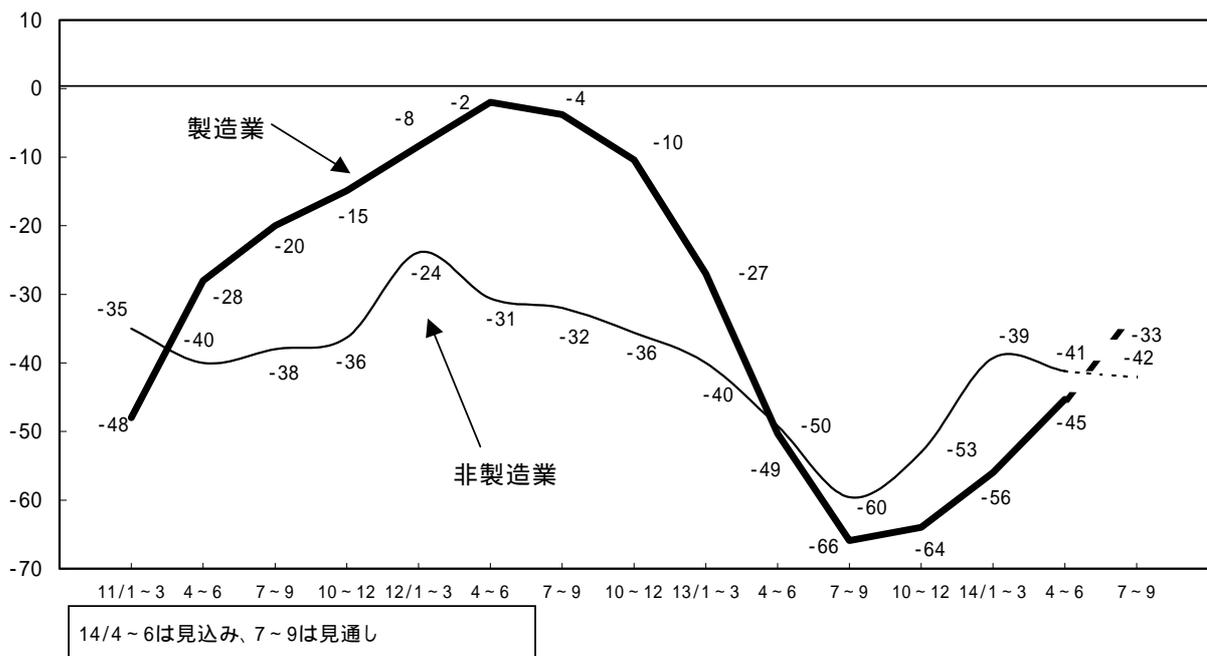
今期(14年4~6月期)の業況判断D.I.値は、製造業が45、非製造業が41となった。前期(14年1~3月期)に比べ、製造業が11ポイント改善したものの、非製造業は2ポイント悪化した。

来期(7~9月期)は、製造業が33と今期に比べ12ポイント改善し、非製造業は42と1ポイント悪化する見通しである。

製造業は、受注の回復や在庫調整の進展から、3期連続でマイナス幅を縮小するなど回復傾向にある。また、設備投資にも動きがあるものの、本格的な回復軌道に乗るには、今しばらく時間がかかる見込みである。

一方、非製造業では物流などに動きが見られるが、公共投資や個人消費など最終需要の脆弱さを反映して、足元で横ばいの動きとなっている。

業況判断D.I.値



## 2. 概要

### (1) 製造業

今期実績見込み(14年4～6月期)

・業況	(業況判断D.I.値)	45	前期比	+	11	ポイント
・経常利益	(前年比増減D.I.値)	34	前期比	+	12	ポイント
	(水準D.I.値)	12	前期比	+	2	ポイント
・設備投資	(実施企業割合)	66%	前期比		1	ポイント
	(投資額D.I.値)	1	前期比	+	5	ポイント
・雇用	(増減D.I.値)	29	前期比	+	13	ポイント
	(適正水準D.I.値)	30	前期比		0	ポイント

- ・経営上の問題点「需要減退」、次いで「競争激化」、「製・商品(サービス)単価の値下がり、値上げ難」の順となっている

来期見通し(14年7～9月期)

・業況	(業況判断D.I.値)	33	前期比	+	12	ポイント
・経常利益	(前年比増減D.I.値)	24	前期比	+	10	ポイント
	(水準D.I.値)	2	前期比	+	10	ポイント
・設備投資	(実施企業割合)	67%	前期比	+	1	ポイント
	(投資額D.I.値)	4	前期比	+	3	ポイント
・雇用	(増減D.I.値)	30	前期比		1	ポイント
	(適正水準D.I.値)	23	前期比		7	ポイント

### (2) 非製造業

今期実績見込み(14年4～6月期)

・業況	(業況判断D.I.値)	41	前期比		2	ポイント
・経常利益	(前年比増減D.I.値)	31	前期比		9	ポイント
	(水準D.I.値)	7	前期比		6	ポイント
・設備投資	(実施企業割合)	53%	前期比	+	5	ポイント
	(投資額D.I.値)	38	前期比	+	13	ポイント
・雇用	(増減D.I.値)	16	前期比	+	10	ポイント
	(適正水準D.I.値)	15	前期比	+	6	ポイント

- ・経営上の問題点「競争激化」、次いで「需要減退」、「製・商品(サービス)単価の値下がり、値上げ難」の順となっている

来期見通し(14年7～9月期)

・業況	(業況判断D.I.値)	42	前期比		1	ポイント
・経常利益	(前年比増減D.I.値)	30	前期比	+	1	ポイント
	(水準D.I.値)	8	前期比		1	ポイント
・設備投資	(実施企業割合)	42%	前期比		11	ポイント
	(投資額D.I.値)	18	前期比		20	ポイント
・雇用	(増減D.I.値)	19	前期比		3	ポイント
	(適正水準D.I.値)	10	前期比		5	ポイント